

■9月28日

沖縄県議会、下地島空港の着陸料見直しを検討

沖縄県議会は26日、代表質問が始まり、2会派の4氏が登壇した。2014年度以降の継続利用が危ぶまれている宮古島市の下地島空港について当銘健一郎土木建築部長は「着陸料の見直しも視野に誘致に取り組んでいきたい」との考えを示した。11年3月末で撤退した日航や同年度以降の利用意向を保留する全日空に大きく譲歩した格好で巻き返しに向けて大きく踏み込んだ。

沖縄タイムスによると、当銘部長は「JALについては今後、グアムで訓練を実施する予定と聞いている」とした上で「航空会社にとっては訓練に要する総コストが課題になっているようだ」とし、苦肉の策として減免措置の中で最も重い着陸料に公の場で初めて言及した。

(沖縄タイムス)9/27

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-09-27_54578 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-09-27_54578)

リンク(LCC)、ATR社一運航サポート、駐在員を派遣

来春から運航をスタートする新しい地域航空会社リンク。使用機材は、日本で初導入となる欧州ATR社製の新型機ATR72-600。世界ではメジャーなターボプロップ機メーカーだが、日本ではリンク社の導入が初めてのケースとなる。

JWINGの取材によるとATRは「リンクの本拠地に駐在員を派遣する」としており、国内初のATR導入キャリアとなるリンクの運航をサポートするために、万全の支援体制を敷く構えだ。

(JWING)9/26

中部国際航空、豊田通商、インド航空事業調査

日経によると、豊田通商、中部国際空港などの企業連合はインドで、新空港建設・運営参入に向けた事業化調査を始める。国際協力機構(JICA)の制度を活用し、インド西部で建設予定の新空港について情報収集や調査を実施。今後実施される入札を通じ、空港の施設整備や運営権の獲得を目指す。

対象はアーメダバードで新たに整備される予定の空港。

(日経)9/27

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO60244350W3A920C1L91000/> (->

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO60244350W3A920C1L91000/>)

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD260N2_W3A920C1TJ1000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD260N2_W3A920C1TJ1000/)

ユナイテッド航空、デルタ航空、日米路線でボーイング747投入

ユナイテッド航空など米国の航空大手が、日本と米国を結ぶ路線でボーイング747を積極的に投入する。ボーイング747は、一度に多くの旅客を長距離輸送できるのが強み。米航空大手は、ビジネスや観光の旅客需要が旺盛な路線で採算を確保できると期待する。一方本邦航空会社は747が燃費性能で劣ることなどを理由に全機を退役させる。日航は平成22年の経営破綻を機に23年3月までに全機が引退させた。また全日空も現在保有している4機を、来年3月末までに順次退役させる方針だ。

産経ニュースによると、ユナイテッド航空は来年3月末から、成田ーシカゴ線、ハワイ・ホノルル線、サンフランシスコ線の日米間の主要3路線で、現在は一部の便に限っている747を全便に拡大する。座席数は、現行の主な機材であるボーイング777(269席)に比べ、374席と約4割増える。

ユナイテッド航空は「3路線ともビジネスや観光で大きな旅客需要が見込める」と説明する。実際、成田空港を経由して米国とアジア各国を結ぶ便の需要は増えており、日米間をより輸送力の大きい747への機材変更で対応する。デルタ航空も現在、成田－ニューヨーク線や関西－ホノルル線、中部－デトロイト線など日米間を結ぶ7路線で747を運航しており、主力機材の一つとして用いる方針だ。

(産経ニュース)9/27

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130927/biz13092721160028-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130927/biz13092721160028-n1.htm>)